

印 旛

NO.15



発行 令和7年11月11日発行

印西市立印旛歴史民俗資料館

〒270-1616 千葉県印西市岩戸 1742

TEL0476-99-0002 FAX0476-99-2223



現在の捷水路



掘削時の捷水路

歴史の紐を解いてみよう

風光明媚な印旛沼は、北印旛沼と西印旛沼に二分され、
捷水路で結ばれています。



双子公園のナウマンゾウ



捷水路脇印旛沼自転車道に設置
されている発見記念プレート

催事



天高く 男の子の成長を願って



女の子の成長を願って



昭和 30 年代牛車に乗って嫁入り



農家嫁入り



山辺の
ヤマユリ



印西大師



松虫寺本尊三十三年季開帳 稚児練り供養



松虫寺本尊三十三年季開帳 (平成 24 年)



煮炊き釜と水がめ
(資料館所蔵)



地域活動

昭和 10 年代の共同作業後に記念写真と
当時使用されていた道具



ふるさとにやすらぎを感じ、昔から続いてきたことや身近な湖沼の印旛沼との密接な関係は地域の遺産であります。これは、そんな、いんば地域のある日の写真です。



みんなを守るドクターヘリ

資料館 隣接の閉校した宗像小学校の
ひとコマ



ダルマストーブのある教室

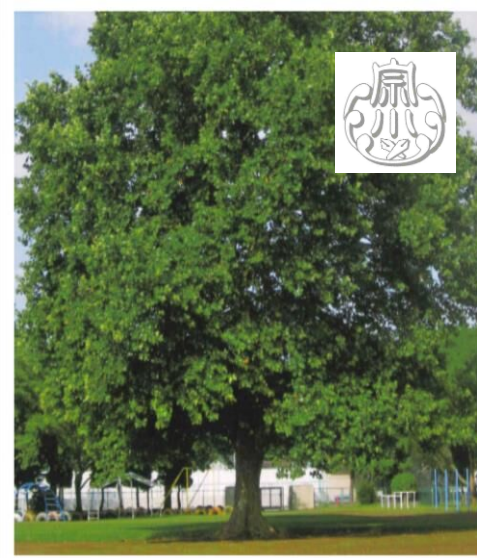


木造の学び舎



消防団活動

昭和100年
昔を学び、未来へ



学校のシンボル プラタナスの木



運動会



鼓笛隊

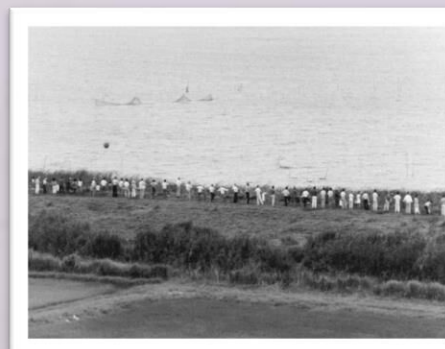


県操法大会優勝記念植樹

背景
北印旛沼に
かかった虹



筑波山



みんなで手をつないだ印旛沼フェスティバル



印旛沼へ鯉とフナの子魚の放流

更なる飛躍を目指して



田園を駆け抜けるスカイライナー



印旛沼



印旛捷水路にかかる鉄橋

地域の行事



いんば音頭



納涼 憩いのつどい



体育祭



元旦マラソン

■展示資料紹介 ボラ漁具

印旛沼での漁の一つに「ボラ流し」がありました。ボラは海水魚ですが、河口や内湾の汽水域に多く生息し、六月から九月ごろまで利根川から印旛沼に入ってきたので、漁がおこなわれてきましたが、大正十一（一九二二）年の印旛水門完成以降、漁は行われなくなりました。

漁の方法は、長さ約四五cmのボラ釣り舟に小さな帆を立て、この舟に約三六〇五四・五mの道系に長さ約一二〇一五cmの垂糸を三〇本位つけたものを結んで漁船から流します。浮きをつけて道系が沈まないようにし、エサにはミミズを用います。ボラ釣り舟が風や水の流れに乗って前進し、水面近くに群れるボラがかかったら道系をたぐって網ですくい上げます。



■表紙紹介

写真は印旛捷水路、市井橋、山田橋の付近を現在と昭和四十年代初めに撮影したものです。

印旛沼は千葉県西北部の下総台地のほぼ中央北部に位置し、昭和二十七（一九五二）年に手賀沼とともに「県立印旛手賀自然公園」に指定され、昭和三十八年から印旛沼開発事業による干拓後も県内では最大の湖沼です。

■映像記録を放映中

○印西市無形民俗文化財

浦部の神楽、鳥見神社の神楽。鳥見神社の獅子舞、八幡神社の獅子舞、別所の獅子舞、いなざき獅子舞。武西の六座念仏の称念仏踊り。印西伝統芸能フェスティバル。

○すばなし（ささのは会）

印旛沼の竜、松虫姫、お鶴と狛犬、そうふけっぱらのきつね、頼政塚とじごくそば、なまやけのやへい。

■有償頒布

○資料館刊行物

研究紀要

2号〜7号 発売中

創刊号は売切れ



■利用案内

開館時間
休館日

午前九時から午後五時
月曜日（この日が祝日に当たるときはその後の日で最も近い休日でない日、祝日、年末、年始（十二月二十八日〜一月四日）、特別の事情により教育委員会が認めた日

入館料
交通案内

無料
北総鉄道「印旛日本医大駅」より宗像路線バス（大成交通）「岩戸」下車 徒歩五分

■歴史探訪 身近な旅編

○松虫寺姫伝説を巡る

〜秘伝 七仏薬師を特別に観覧〜
日時 十二月三日（水）
午後一時半から午後四時半

○資料館周辺を巡る

〜泉福寺〜西福寺〜
日時 二月二十八日（土）
午前九時半から午後十二時

※両日共に詳しい募集については、広報、市ホームページでお知らせします。参加者には、素敵な記念品を用意しています。

■編集後記

館報第十五号をお届けします。

今号は前号に続き「昭和百年」をテーマに、収蔵資料の中から印旛地区の写真を紹介しています。今はスマートフォンでどこでも気軽に写真が撮れますが、古い写真を調べていると、昔はカメラを持っている人が少なく、印旛地区では、地域や学校行事の際には佐倉の写真館が出張撮影に来たそうです。昭和三十年代までは佐倉と印旛の行き来は渡船だったことを考えると、大切な歴史資料だと痛感します。古いものはいらないではなく、古いものを大切にしながら未来に進みたいものです。（N）

歴史は、物事を深く理解するために知っていて損はないと思います。ぜひ、印西市立印旛歴史民俗資料館へお越しください。（み）

